

多様な学びの場「すこやか教室」

11月9日に行われた第3回須賀川市立学校長会議の中で須賀川市は全国・県平均と比べ、不登校の出現率がかなり低いことが報告されました。その理由として各校の取り組みによるところが大きいとおもわれますが、須賀川市の適応指導教室「すこやか」もその一端を担っています。

今回は知っていそうで知らない「すこやか教室」の様子をお伝えします。

・東北福祉大学 中村恵子准教授の「適応指導教室での集団社会療法」理論をベースに運営

自分の目標、自分の計画で自学自習を行う。決して無理強いはいらない。理科教室・英語教室・スポーツ教室などのすこやか教室独自の活動の他、市の芸術鑑賞教室や県のLearn in 福島等の行事に参加。あくまでも希望者である。受験に向けての講座も希望者のみ受講。

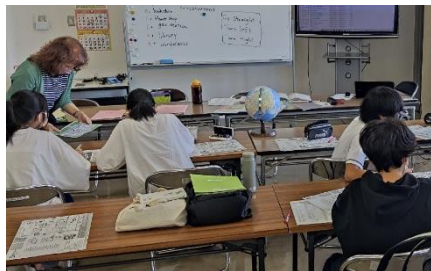
学習だけでなく、手芸・イラスト・ギター等、得意なものに取り組む時間と場所の提供を行うとともに、対人関係やコミュニケーション力を高めるために指導員も入って、トランプやカードゲーム、卓球・おしゃべりの時間等もある。



・学校や学級に行きづらく、居場所のない児童生徒が、安心できる居場所

11月14日現在、本通級19名（うち学校復帰6名）仮通級19名。

6月以降は常時10名前後の児童生徒が通級している。ほとんど休まず通級してくるケース、週に1、2回のペースで通うケース、不定期で通うケースとさまざまである。対人関係が苦手な児童生徒は、個室、あるいは少人数での学習が可能で、研修室1~4まで、毎日フル稼働の状態で使用している。



・すこやか教室は朝9時から、月金は12時まで、火水木は13時まで開講

遅く来ることも、早く帰ることも問題視はしない。本人の体調に合わせてくることができればOK。

・在籍校との連携について

毎日13時過ぎに、FAXで出席状況を各在籍校へ連絡している。

本通級の生徒は、すこやか教室で実力テストや定期テストの受験も可能である。実際に数名がすこやか教室で受験し、答案は学校へ返却。結果は本人へ配付されている。

月に一回、すこやか教室から各在籍校へ生徒支援票(すこやか教室での様子を記載したもの)を送付、担任がコメントを記入してすこやかへ返送することで児童生徒の様子を「すこやか教室」と在籍校で共通理解を図っている。

清掃に力あり

ある小学校の壁に貼られていたものです。黙々と取り組む日常の姿から子どもたちは多くのことを学んでいると感じます。

・・・・・・・・・・・・・・・・

毎日、15分間の掃除の時間
汗して懸命に働くと体力、思いやり、忍耐力、根気・・・等々

こんなすごいものが
身についてくる。
なぜだか分からない。
でも、確実に身についてくる。

人が自立していく時に必要なものは
人が働くこと、行動することによってしか人に与えられてこなかった。

やる気を語っても
冷たい水で雑巾をキッと絞る人にはかなわない。

優しさを語っても
片隅のゴミをさっと拾う人にはかなわない。

真面目さを語っても
黙々と机を運ぶ人にはかなわない。

清掃に力あり
汗して、確実に育っていく君たちを想う。

作者不明



「 No Line, No Laps, No Lecture 」

学校教育アドバイザーの村瀬先生との雑談の中で、出会った興味深い言葉です。日本サッカー協会の公認コーチ講習で学ぶ内容とのことです。

No Line 順番待ちの時間は作らない

列になって並んで待つことはしない
全員が常に動く
最後まで全員が参加する

No Laps ただグラウンドを走るだけの練習はしない

ボールなしで、ただ走ることをしない
意味もない「あと〇周！」はなし

No Lecture . . . 長々と説明しない

話だけに時間を割かない



「先生に〇をつけてもらうための長い列」、「たくさんの計算問題が並んだプリント」、「延々と続く先生の説明」、教室の中の一コマが浮かんでくるような言葉でした。

部活動の指導について、自分が経験してきた“昭和”の「水は飲むな！的な根性論」での指導は、現代ではとても考えられない指導法になっています。今、部活動で指導してくださっている先生方は、「子どもたちの自主的、自発的な活動をいかに支えて効果的な活動ができるか」ということを考えて指導にあたっているのではないのでしょうか。

昭和から平成、令和へと、部活動や各種スポーツの指導法が大きく変わってきたように、学校の「生命」とも言える「授業」が、社会環境の変化やこれからの時代に求められる人物像に対応できるように変化・深化してきているのかをつねに問い続けていきましょう。

「 No Line, No Laps, No Lecture 」

自分自身の授業にあてはめて振り返ってみてはいかがでしょうか。自分の授業では何を
変えていくことが大切なのか、という一つのヒントになると思います。

迷ったときに立ち戻る、“原点となる書籍”に . . .

10月に配付された書籍「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり 須賀川市の挑戦」は、学校教育アドバイザーの先生方のご指導をいただきながら、市内各学校の先生方が、主体的・対話的で深い学びを實現し、一人残らず子どもたちの学びを保障するために、「授業と授業研究を第一優先にした学校づくり」に取り組んできた実践の記録等をまとめたものです。

私たちが、授業について悩み、迷ったときに、先生方の目の前にいる子どもたちを想起しながらあらためて読み返してほしいと思います。自分の授業のヒントになるものが見つかると思います。

